

第5部 近代 近代国家の歩みと国際社会
 第5章 帝国主義と日本 1 アジアの列強をめざして 教科書P176~177

【問題】右の絵はヨーロッパ諸国の力関係を風刺した絵地図です。一番強い力を持っているのはどこの国でしょう？



○ 欧米諸国の外交

- 19世紀後半以降、イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、アメリカ など → (①) とよばれる。
- ①の国々は、(②) 政策をとる。
 ②とは… 原料や市場を求めて海外へ進出
 国家と大企業が一体となって工場や鉱山を経営
 利益を守るために軍事力を強めて(③) 支配
- (④) と(⑤) は北東アジアの支配をめぐり対立。

○ 条約改正へ

年	責任者	交渉の状況	不平等条約の内容
1872	岩倉具視	準備不足で失敗	(⑥) を認める
1878	寺島宗則	イギリスなどの反対で不成功	(⑦) がない。
1882~87	井上馨	欧化政策への反発で中止	井上馨… (⑧)
1888~89	大隈重信	外国へ譲歩した大隈が襲われ中止	→ 国民は反発
1891	青木周蔵	大津でロシア皇太子が襲われ中止	ノルマントン号事件で交渉延期
1894	陸奥宗光	領事裁判権の廃止に成功	→ 国民は⑥の廃止を強く求める。
1894~95	日清戦争		
1899	青木周蔵	各国との改正条約を実施	• 1894年(⑨)
1904~05	日露戦争		(⑩) と交渉し、
1911	小村寿太郎	関税自主権を完全に回復	(⑪) 条約) 結ぶ。

めあて

【調べよう】 教科書 P176 資料③を読み、ノルマントン号事件の内容を簡単に説明しよう。

【考えよう①】 ノルマントン号事件に関する裁判の結果について、日本国内の世論(民衆の意見)が、(⑥)の廃止を強く求めたのはなぜでしょうか。

【考えよう②】 日本がイギリスとの条約改正を最初に行った目的として2つのことが挙げられます。2つのうち、もう一つを考えて書きましょう。

(1) 日本が憲法を定め、議会による政治を行う**立憲国家**になったことを知らしめるため。

(2) イギリスが日本の…

【考えよう③】 イギリスとの条約交渉に成功した日本が、これからの外交でめざすことは何でしょうか？

まとめ

- 欧米列強の外交政策は…
- 日本における領事裁判権の廃止は、()年(人:)が、(国:)との交渉を成功させた。